

季節感を演出するユニット式家具

Composition - Changable Furniture for Each Season

AD31 土田 ゆうき
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

日本にある四季によって存在する衣替えの習慣に着目し、現代では多種多様になった衣服に合わせた収納空間を考える。

四季毎の衣替えをより簡単に、またそれによって季節を感じられる収納家具を制作する。

衣替えは出したり入れたり作業がとても面倒くさく、一度しまってしまうと次に出すときにどれをどこにしまったかわからなくなることが多い。衣服の種類が増え、1つの家具ではすべてをしまふことができない。

2. 調査と分析

主な収納家具は押入れ・箆笥・クローゼットでありこれらと収納ケースを組み合わせる収納性を高めている。収納ケースの寸法は様々であるが押入れ用、クローゼット用の寸法に合わせて作られている。

代表的な収納家具の寸法について

- ・押入れ…奥行き約63～74cm 布団などの大きいものが入れるようになっている。
- ・クローゼット…奥行き約45～55cm コートやワンピースなどをハンガーに掛けて収納する。また、その上に棚があり、カバンなどを入れるスペースがある。
- ・箆笥・チェスト…奥行き約55cm 衣服をたたんで収納する。

今回は1人暮らしの女性をターゲットとした。収納する対象はズボン(ジーンズ・チノパンなど)・シャツ(Tシャツ・Yシャツ)・スカート・アウター・インナー・スーツ・帽子・マフラーなどの衣服があり、これらは冬場と夏場では素材や着込む量などで収納範囲が大きく変わってくる。またアクセサリなど、衣服以外のものを一緒に収納する家具は少なく、必要性があると考え。

3. コンセプトの立案

衣替えをしても見た目は1年中同じの収納家具ではなく衣替えをすることによって季節の変わり方を収納した家具から感じ取れる家具。

この収納家具は衣替えした後の夏服・冬服の差が目で見ることができる。

4. デザイン展開

＜ユニット単位での入れ替え式＞

衣服を入れ替えるのではなく、引き出しごとに入れ替えることができる。入れ替えた引き出しは押入れや他の収納家具のサイズと関連しており、収納ボックスのように収められる。

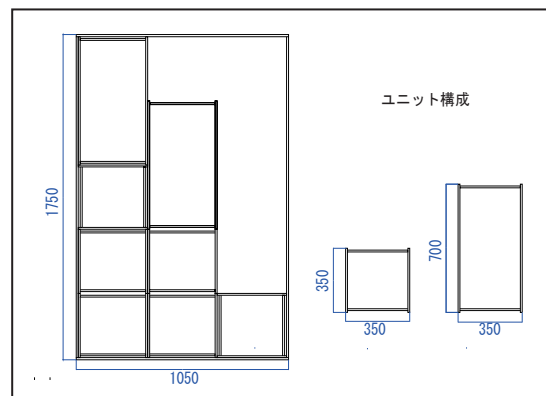
＜ユニット構造による自由な配置＞

ユーザーが使いやすいように自由にユニットを配置できる。

ユニットとユニットの間に隙間を作り、取り出しやすいようにした。

木材は持ち運ぶことを考えて軽くて加工しやすいシナランバーコアを選んだ。

5. 完成図



6. 結論

中身が外から見えるため、何がどこにあるのかわかりやすく取り出しやすい。

収納対象が衣類に限られなくなり、多目的収納家具になってしまい、衣替え(衣類)による季節の演出という目的から遠のいてしまった。

各ユニットの用途をもう少し明確にわかりやすくしなければ、結局、衣替えの際にどこにしまったのか分からなくなってしまうので、着色や構造による工夫が必要である。

7. 参考文献

・ディノス

<http://www.dinos.co.jp/c4/002001026007/1a2/>